



2026年12月期 第2四半期(中間期) 決算説明会資料

I. 2026年12月期 第2四半期(中間期)業績

II. 2026年12月期 業績予想

III. 2028年中期経営計画トピックス

IV. 参考資料



2026年12月期 第2四半期(中間期) 業績

■ 事業環境

- 世界経済は、中東情勢による原油由来の経済悪化が続く中、半導体関連需要が下支え。
- 原油・ナフサ市況は、中東情勢の緊迫化を背景に、不安定な状況が継続。供給不安も発生。
- 国内経済は、賃上げを背景に底堅く推移。一方、原油・ナフサ価格の動向は大きな懸念が継続。

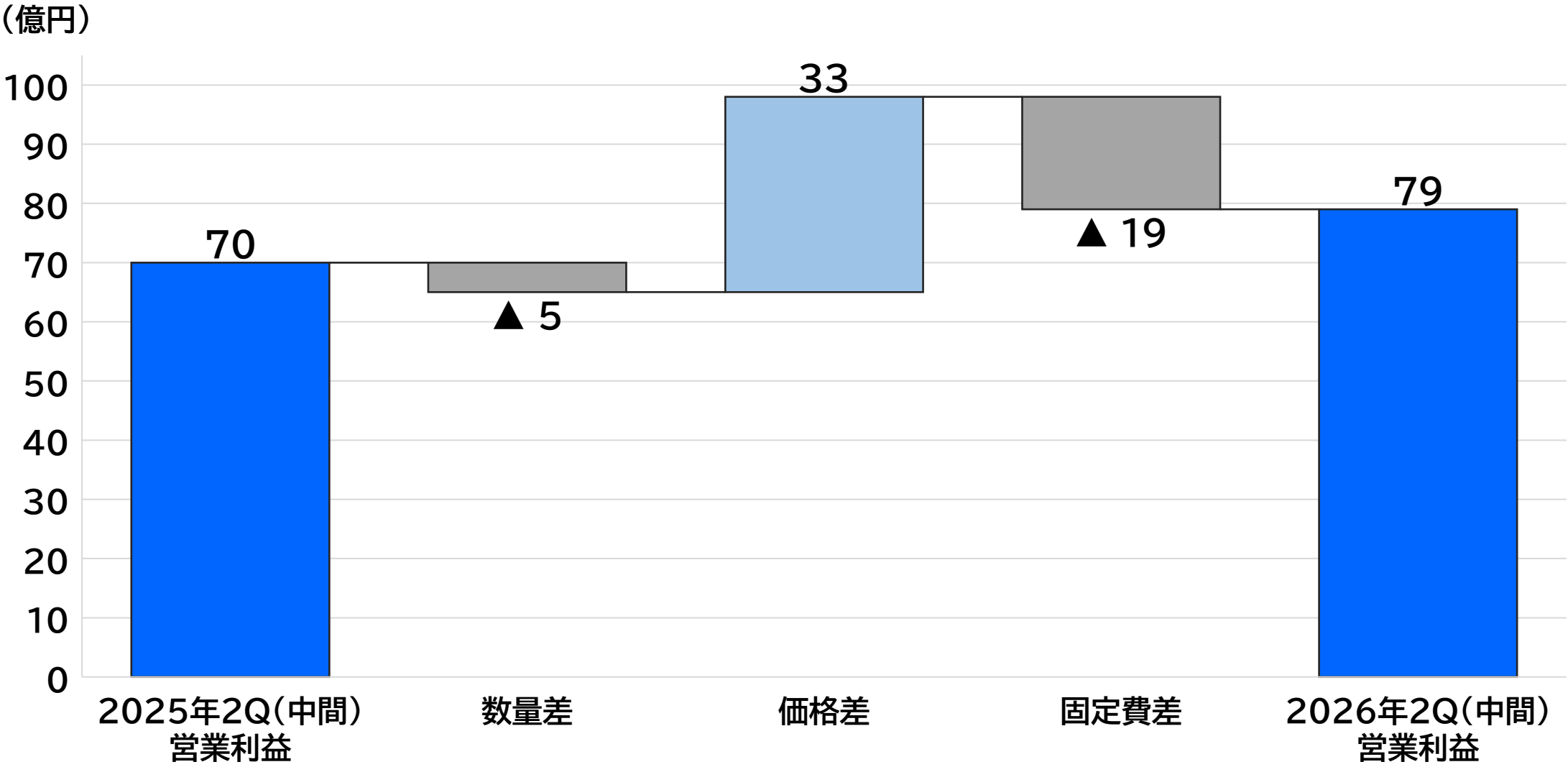
■ 中間決算概況

- 売上高 824億円、営業利益 79億円 増収増益。
- ポリマー・オリゴマー、高機能材料、樹脂加工製品が、利益成長をけん引。
半導体向け製品、モビリティ・電子材料・医薬化粧品向け製品、下水道関連製品が好調。
- 基幹化学品は、アクリルモノマーの販売数量減少や定期修理費用増加により減益。
- 中東情勢による原料調達制限が発生したものの、生産・出荷体制を維持し安定供給を継続。
- 上期実績を踏まえ、通期業績予想を上方修正。
中間配当・期末配当予想を各1円増配し、年間配当は72円を予定(年間配当 前年比+7円/株)。

	2025年 中間	2026年 中間	増減	増減率
売上高 (百万円)	80,344	82,405	2,061	+2.6%
営業利益 (百万円)	7,018	7,912	893	+12.7%
営業利益率	8.7%	9.6%	0.9p	—
経常利益 (百万円)	7,497	8,580	1,082	+14.4%
親会社株主に帰属する 中間純利益 (百万円)	5,715	6,019	304	+5.3%
1株当たり中間純利益 (円)	51.76	56.56	4.80	+9.3%
中間配当(年間) (円)	32.5 (65.0)	36.0 (72.0)	+3.5 (+7.0)	+10.8% (+10.8%)

< 参 考 >

為替レート (期中平均) (円 / U S D)	150.20	157.44
ナフサ価格(期中平均) (円 / kℓ)	69,850	92,350



連結業績(セグメント別)

(百万円)

売上高	2025年 中間	2026年 中間	数量差	単価差	増減額
	A	B			B-A
基幹化学品	36,180	33,352	▲ 5,168	2,340	▲ 2,827
ポリマー・オリゴマー	17,538	19,624	373	1,711	2,085
接着材料	6,761	7,296	▲ 238	773	535
高機能材料	5,013	5,727	572	141	714
樹脂加工製品	13,733	15,208	742	733	1,475
その他・調整額	1,117	1,195	78	0	78
合 計	80,344	82,405	▲ 3,640	5,701	2,061

(百万円)

営業利益	2025年 中間		2026年 中間		増減
	営業利益	営業利益率	営業利益	営業利益率	
基幹化学品	4,681	12.9%	3,500	10.5%	▲ 1,180
ポリマー・オリゴマー	1,266	7.2%	2,396	12.2%	1,130
接着材料	263	3.9%	206	2.8%	▲ 57
高機能材料	459	9.2%	903	15.8%	444
樹脂加工製品	1,172	8.5%	1,849	12.2%	676
その他・調整額	▲ 823	—	▲ 944	—	▲ 121
合 計	7,018	8.7%	7,912	9.6%	893

連結損益計算書(営業外損益・特別損益)

(百万円)

営業外損益	2025年 中間	2026年 中間	増減
受取利息・配当金	826	927	100
持分法による投資利益	90	20	▲70
為替差益	—	98	98
固定資産賃貸料	9	7	▲2
その他	82	55	▲27
支払利息	▲83	▲172	▲88
為替差損	▲318	—	318
環境整備費	▲80	▲54	26
遊休設備費	▲3	▲75	▲71
その他	▲44	▲138	▲94
合計	479	667	188

持分法利益 (内訳)	2025年 中間	2026年 中間	差異
Elmer's & Toagosei Co.	117	—	▲117
中部液酸	▲26	20	46
合 計	90	20	▲70

(百万円)

特別損益	2025年 中間	2026年 中間	増減
固定資産売却益	—	879	879
投資有価証券売却益	1,187	277	▲910
補助金収入	46	341	294
固定資産処分損	▲581	▲912	▲330
災害による損失(※)	▲50	▲29	20
投資有価証券評価損	▲182	▲464	▲281
圧縮未決算 特別勘定繰入額	▲40	▲336	▲295
合計	379	▲244	▲623

※能登半島沖地震復興費用

為替レート	2025年 6月末	2025年 12月末	2026年 6月末
円 / USD	144.81	156.56	162.39
円 / THB	4.44	4.97	4.87

連結貸借対照表

(百万円)

	2025年12月末	2026年6月末	増 減
流 動 資 産	110,556	107,424	▲ 3,132
現預金・有価証券 ①	31,518	22,017	▲ 9,500
売上債権	49,558	50,569	1,011
棚卸資産 ②	25,469	28,462	2,992
その他	4,061	6,428	2,366
貸倒引当金	▲ 51	▲ 53	▲ 2
固 定 資 産	178,548	189,287	10,738
有形固定資産 ③	129,050	132,602	3,552
無形固定資産	4,723	4,689	▲ 33
投資有価証券 ④	36,029	42,423	6,393
その他固定資産	8,745	9,572	827
資 産 合 計	289,105	296,711	7,606

	2025年12月末	2026年6月末	増 減
負 債 合 計	73,160	75,716	2,555
仕入債務 ⑤	16,513	19,608	3,095
社債	10,000	10,000	0
借入金	10,635	10,565	▲ 70
未払法人税等	2,543	2,156	▲ 386
その他負債合計	33,469	33,386	▲ 83

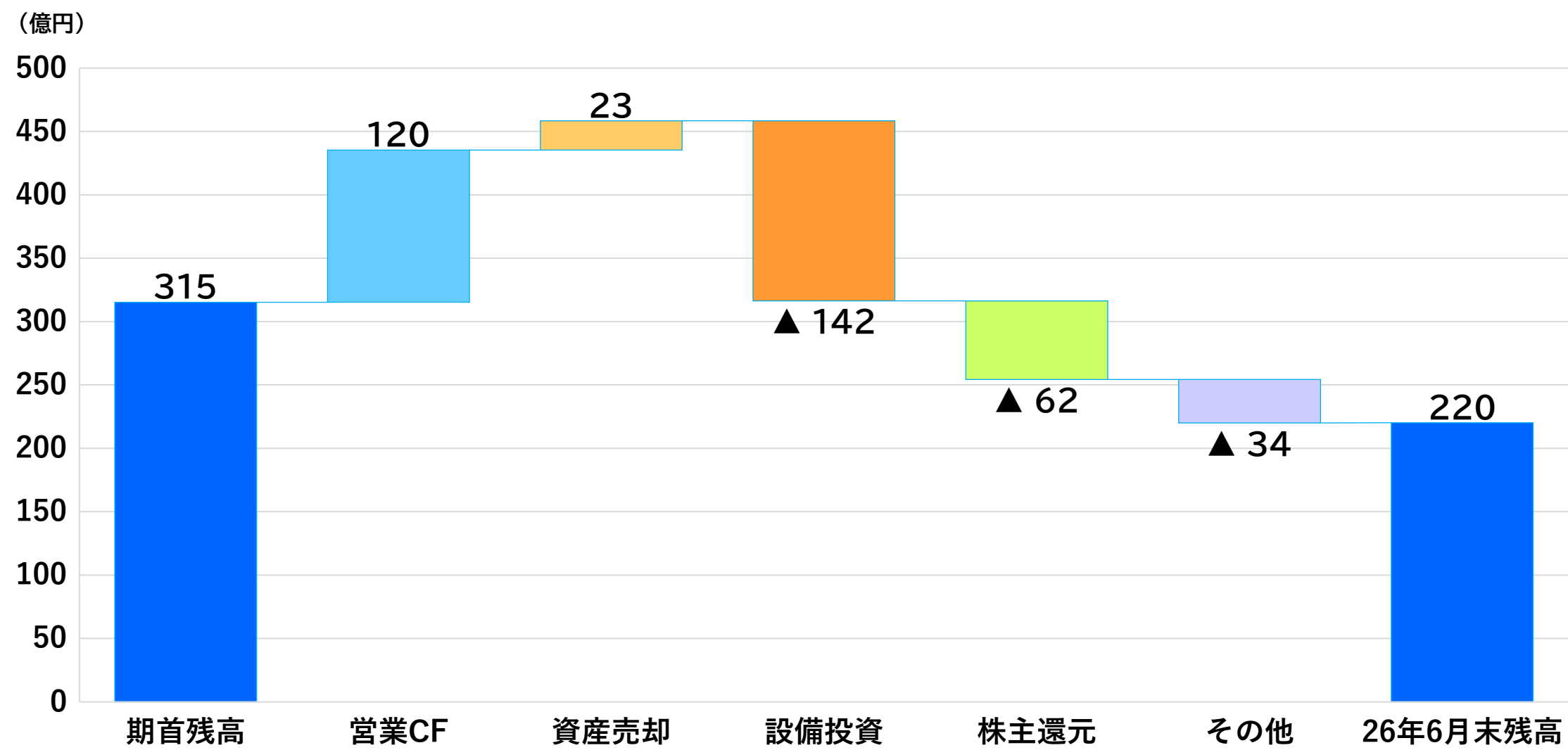
純 資 産 合 計	215,944	220,995	5,050
株主資本	190,491	190,455	▲ 35
その他の包括利益 ⑥ 累計額	24,316	29,346	5,030
非支配株主持分	1,136	1,192	55
負 債 ・ 純 資 産 合 計	289,105	296,711	7,606

①設備投資・株主還元により減少(有価証券は譲渡性預金)
②製品単価の上昇影響により増加
③設備投資により増加
④保有株の株価上昇により増加

自己資本比率	74.3%	74.1%	▲ 0.2p
--------	-------	-------	--------

⑤原料単価の上昇影響により増加
⑥投資有価証券評価差額金の増加(保有株の株価上昇による)

キャッシュアロケーション(2026年中間)



2026年12月期 業績予想

■ 事業環境

- 中東情勢による原料調達、物流リスクおよびコストの変動懸念が継続。
- AI・データセンター需要を背景に、半導体関連市場は、引き続き好調に推移。
- 国内では、賃上げや各種資材価格の上昇を背景に労務費や物流費、建設コストの上昇が継続。

■ 下期の課題と対応

- 中東情勢による原料調達制約への対応を継続し、安定生産・安定供給を確保。
原材料価格に応じた柔軟な価格対応の実施。
- ポリマー・オリゴマー、高機能材料、樹脂加工製品を中心とした利益成長を継続。
- 高付加価値製品の開発と拡販、海外展開推進による海外売上高比率の向上。
- 特長ある企業や研究機関との共創を通じた技術力強化と新規事業展開の加速。
- PBR1倍超えに向けた資本効率向上および株主還元施策の推進。

2026年12月期 連結業績予想(前年同期比)

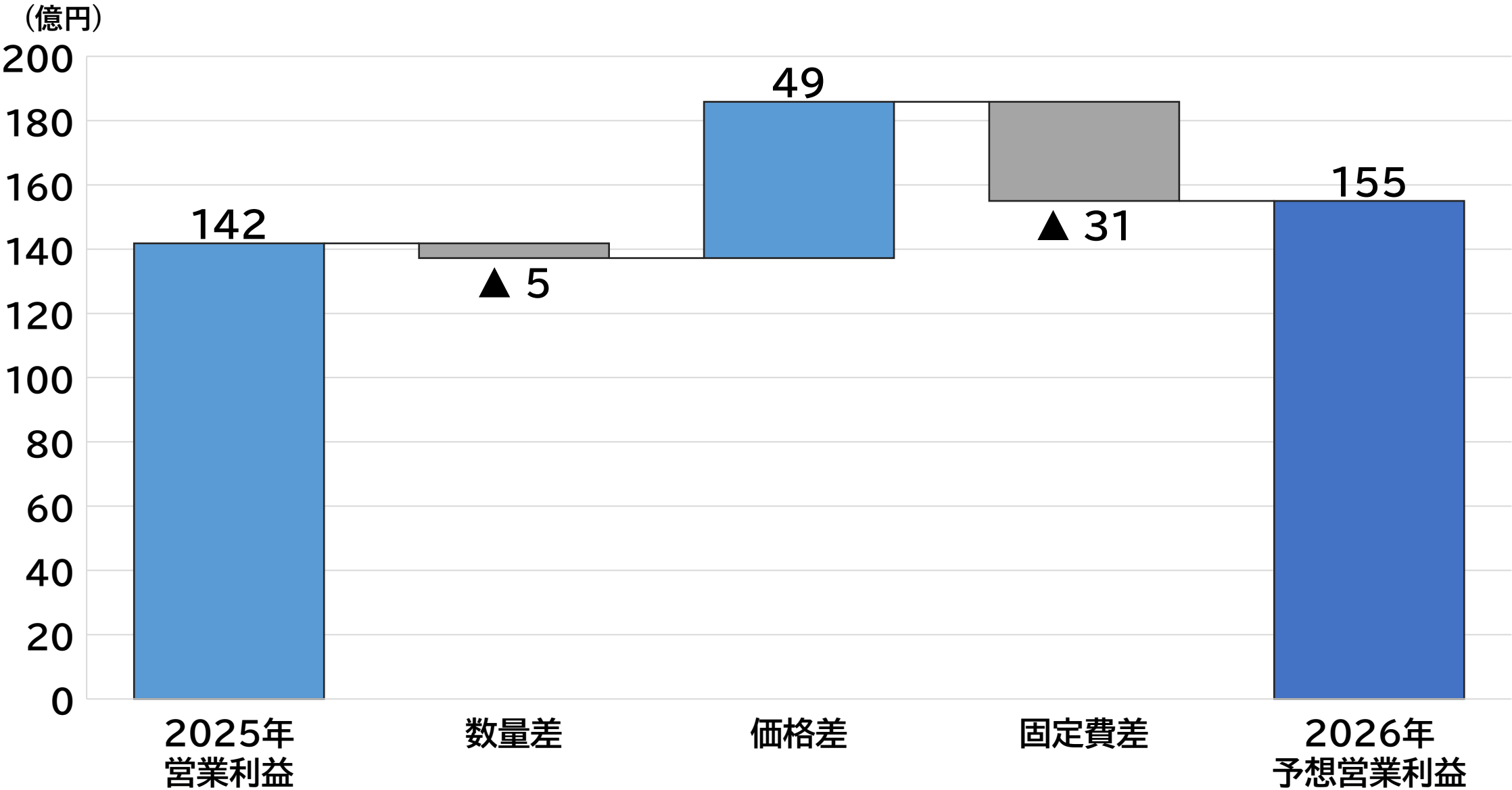


	2025年実績			2026年予想			増減 (B-A)
	上期	下期	年間 (A)	上期 実績	下期 予想	年間 (B)	
売上高	80,344	81,968	162,312	82,405	87,595	170,000	+7,687
営業利益	7,018	7,162	14,180	7,912	7,588	15,500	+1,319
営業利益率	8.7%	8.7%	8.7%	9.6%	8.7%	9.1%	+0.4p
営業外損益	479	407	886	667	133	800	▲86
経常利益	7,497	7,570	15,067	8,580	7,720	16,300	+1,232
特別損益	379	1,899	2,278	▲244	44	▲200	▲2,478
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,715	7,051	12,766	6,019	5,781	11,800	▲966
配当(円)	32.5	32.5	65.0	36.0	36.0	72.0	+7.0

< 参考 >

	2025年実績	2026年予想
為替レート(期中平均) (円/USD)	149.59	159.00
ナフサ価格(期中平均) (円 / kℓ)	67,125	91,000

※ナフサkℓ当たり1千円の変動で約±250百万円。為替:1円/USDの円安で約▲100百万円。



2026年12月期 連結業績予想（部門別 前年同期比）

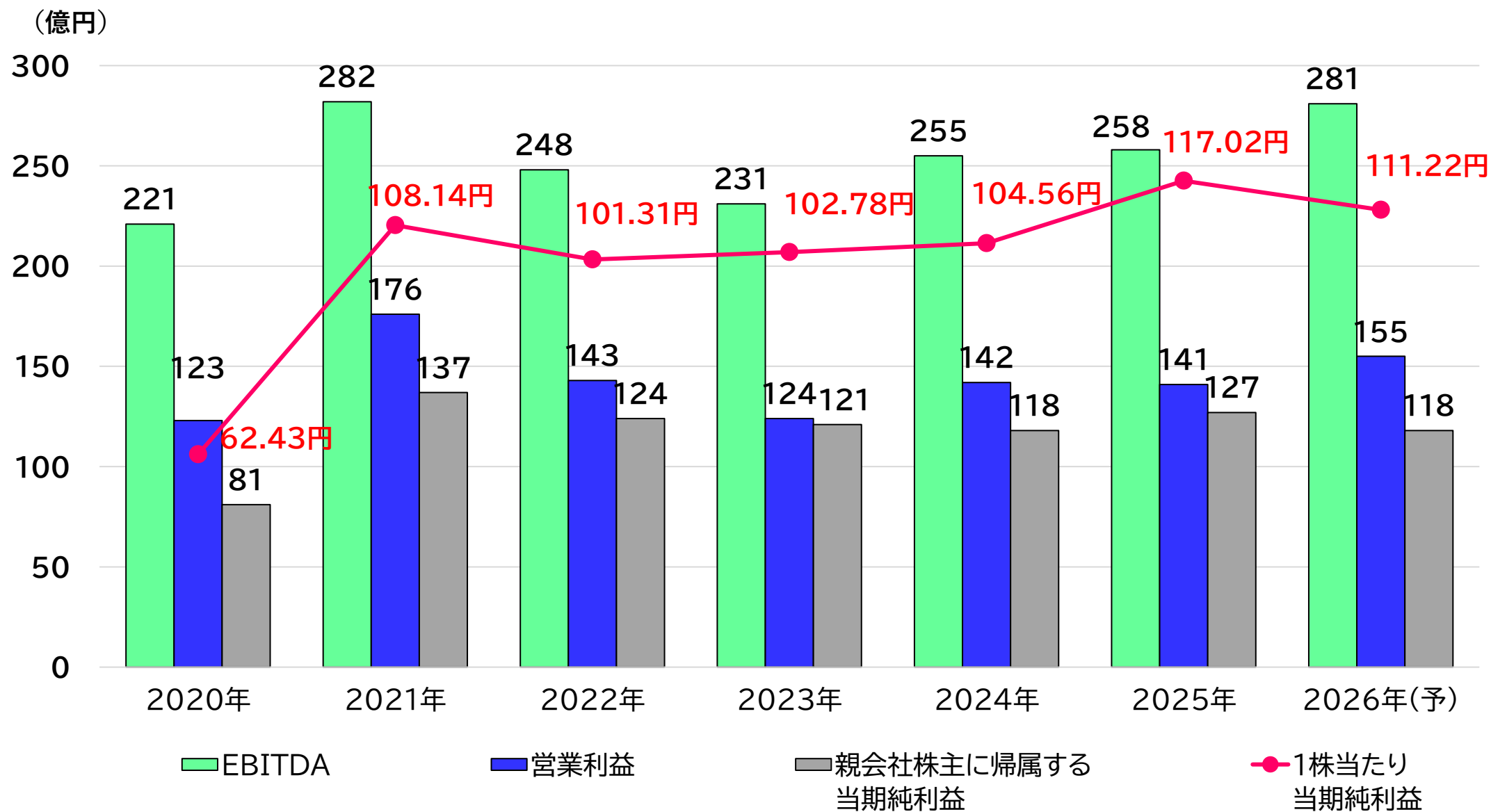


売上高	2025年 実績			2026年 予想			増減
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	
基幹化学品	36,180	35,592	71,772	33,352	37,048	70,400	▲ 1,371
ポリマー・オリゴマー	17,538	18,631	36,169	19,624	20,876	40,500	4,331
接着材料	6,761	6,846	13,607	7,296	7,604	14,900	1,293
高機能材料	5,013	5,212	10,225	5,727	5,973	11,700	1,475
樹脂加工製品	13,733	14,444	28,177	15,208	14,492	29,700	1,522
その他・調整額	1,117	1,243	2,360	1,195	1,605	2,800	436
合 計	80,344	81,968	162,312	82,405	87,595	170,000	7,688

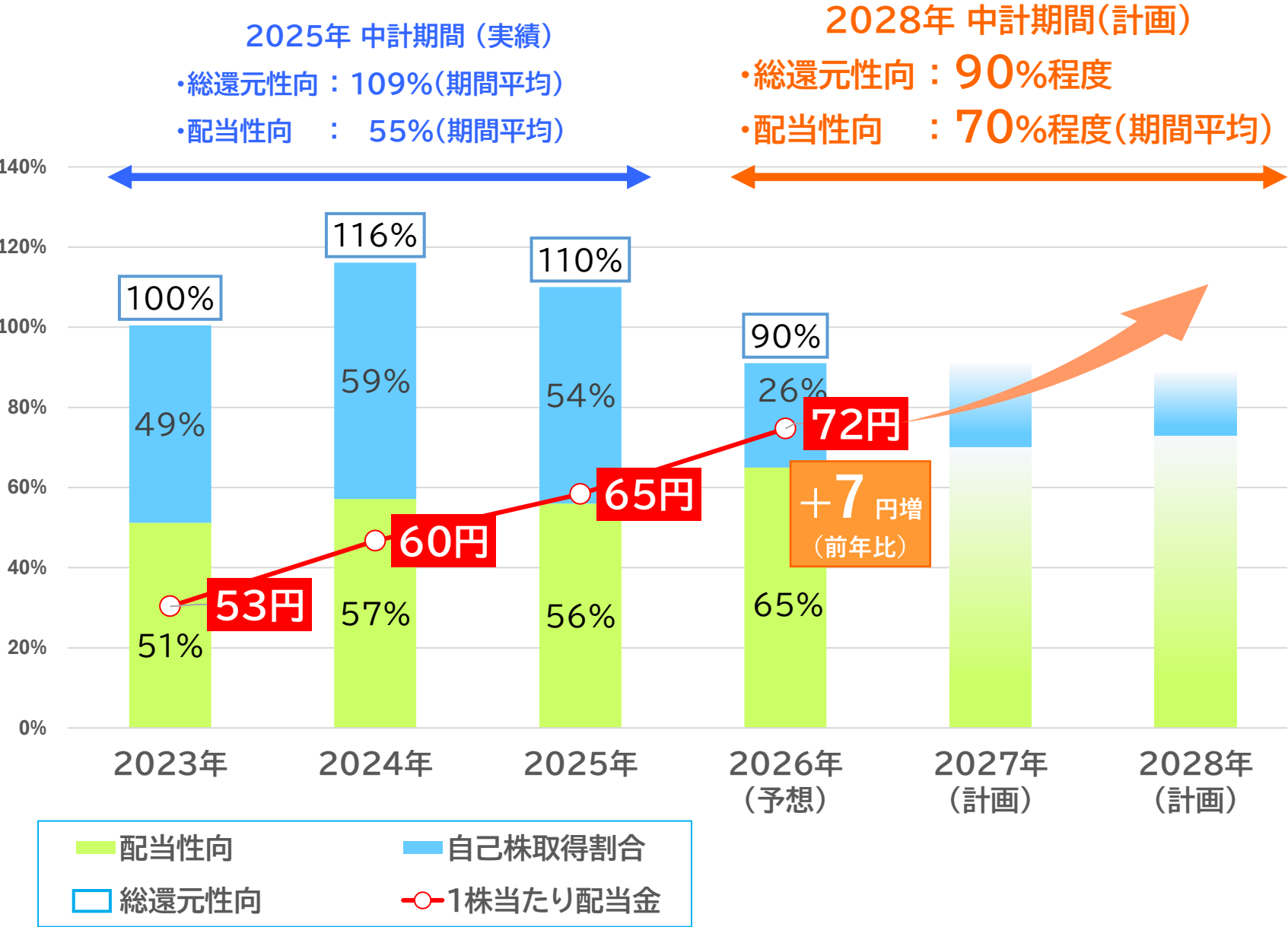
営業利益	2025年 実績				2026年予想				増減
	上期	下期	年間	率	上期	下期	年間	率	
基幹化学品	4,681	4,071	8,752	12.2%	3,500	3,500	7,000	9.9%	▲ 1,752
ポリマー・オリゴマー	1,266	1,752	3,018	8.3%	2,396	2,204	4,600	11.4%	1,582
接着材料	263	60	323	2.4%	206	294	500	3.4%	177
高機能材料	459	718	1,177	11.5%	903	997	1,900	16.2%	723
樹脂加工製品	1,172	1,582	2,754	9.8%	1,849	1,551	3,400	11.4%	646
その他・調整額	▲ 823	▲1,022	▲1,845	—	▲ 944	▲ 956	▲ 1,900	—	▲ 58
合 計	7,018	7,162	14,180	8.7%	7,912	7,588	15,500	9.1%	1,320

連結業績推移

(百万円)



株主還元の推移



株主優待制度 (2025年10月導入)

アロンアルファに加え、保有株式数に応じてクオカードやカタログギフト(当社工場の立地する県の特産品等)を贈呈。

クオカード



⇒ 当社への理解を深めていただき
新たな東亜合成ファンを創出

⇒ 株主数増加

2025年 6月 約 2.1万人

2025年12月 約 3.1万人

2026年 6月 約 **3.5万人超**

2028年中期経営計画 トピックス

1. 中計概要

- (1) 成長戦略(セグメント別)
- (2) セグメント別営業利益(実績)

2. ポリマー・オリゴマーにおける注力分野の中計進捗

- (1) 成長戦略の加速：半導体・電子材料、医薬化粧品
- (2) 生産性の向上：凝集剤設備統合

3. 高機能材料の中計進捗

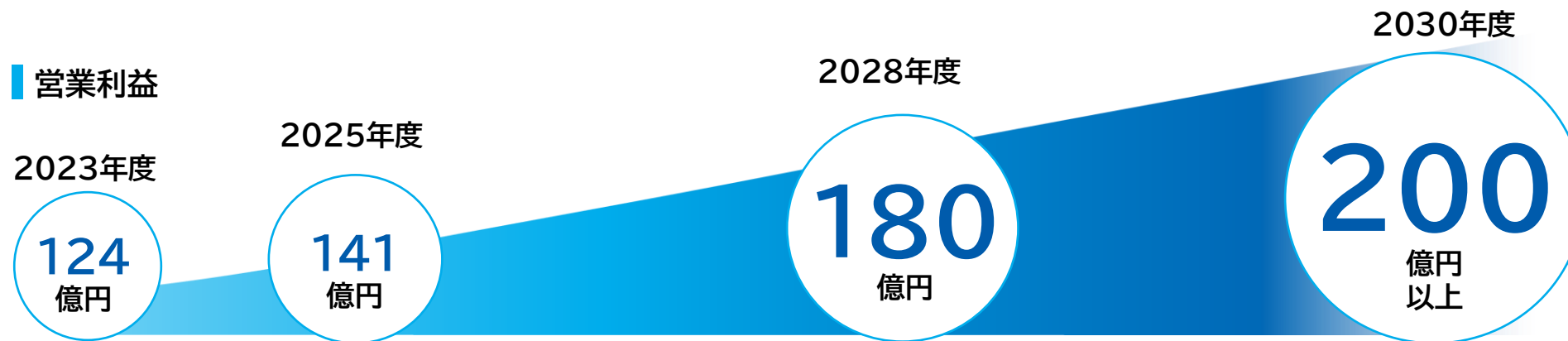
- (1) 半導体向け高純度製品の強化
- (2) 液化塩化水素の次世代プロセス開発

4. 海外売上高の中計進捗

5. カーボンニュートラルに向けた取組み

1.中計概要

「共創で未来を拓く」をスローガンに、2030年に目指す姿に向け「No.1・Only1製品の拡大と社会課題解決型企业への進化」を加速します。



基本方針

2026年 - 2028年度

Connect and Create 2028
(共創で未来を拓く)

1. 注力分野への積極的な開発と投資の継続
2. 既存事業のブラッシュアップと収益性の向上
3. 企業価値の向上と持続可能な価値創造

2030年にめざす姿

- No.1・Only1の高機能製品を群として保有し、社会課題の解決に貢献している。
- 積極的な成長投資、資本構成の最適化により、企業価値が向上している。

1.中計概要

(1)成長戦略（セグメント別）

セグメント	2025年 営業利益 (億円)	2026年－2028年 注力事項		2028年 営業利益 (億円)
基幹化学品	87	製品用途拡充 生産性向上・省エネ ポートフォリオ見直し	陸上養殖、浄水薬品、 半導体薬品 など多用途への拡販 ソーダ電解複極化、硫酸工場更新、統合管制システム導入 PVC停止、不採算事業の合理化・見直し	80
ポリマー・ オリゴマー	30	成長戦略加速 生産性向上 海外展開推進	車載電池、半導体 、医薬、化粧品用ポリマー等の開発・拡販 凝集剤設備統合による合理化 中国・東南アジアでの高付加価値製品の拡販	56
接着材料	3	海外事業強化 成長戦略推進 新製品開発	米国瞬間接着剤の立直し、インド周辺国のビジネス展開開始 モビリティ関連製品 開発(燃料電池シート、LiDAR他) UV絶縁材、ハードコート材等の開発加速、プロジェクトによるテーマ開発	11
高機能材料	11	半導体薬剤強化 無機機能材拡充 メディカル事業 立上げ	液化塩化水素、高純度カリの品質向上・供給体制強化 電子材料用等の新素材開発加速(イオン捕捉剤 、 負熱膨張材 、MOF他) DDS・siRNAの非臨床・臨床試験入り、歯科領域新製品投入	19
樹脂加工 製品	27	下水道老朽化対策 介護用品拡充 エコマテリアル商材	マッピングカメラ、AIによるソリューションビジネス強化 介護ロボットと見守りセンサー等の在宅介護用品の拡充 新機能のエラストマー開発・推進(自動車用 、 半導体関連部材 他)	34
その他・調整	▲18	サステナビリティ コーポレート・研究	小水力発電・太陽光発電、CN蒸気導入による脱炭素推進 AIを利用した新技術・新材料探索、MI・計算化学の活用推進他	▲20
合計	141	※赤色は注力分野		180

1.中計概要

(2)セグメント別 営業利益

単位:億円

セグメント	2025年 営業利益 (実績)	2026年 営業利益 (予想)	2028年 営業利益 (計画)
基幹化学品	87	70	80
ポリマー・オリゴマー	30	46	56
接着材料	3	5	11
高機能材料	11	19	19
樹脂加工製品	27	34	34
その他・調整	△ 18	△ 19	△ 20
合計	141	155	180

ポリマー・オリゴマー、高機能材料(半導体)に加え樹脂加工製品も前年比で好調。

2.ポリマー・オリゴマーにおける注力分野の中計進捗

注力分野(半導体・電子材料、モビリティ)に加え、医薬・化粧品や凝集剤用途も売上拡大が続く

2023年売上を100とする

注力分野	2023年 (実績)	2024年 (実績)	2025年 (実績)	2026年 (予想)	2028年 (計画)
半導体・ 電子材料	100%	111%	112%	122%	131%
モビリティ	100%	199%	203%	234%	310%
医薬・化粧品	100%	107%	121%	139%	181%
凝集剤	100%	99%	102%	105%	111%

※モビリティは、当該セグメントに含まれるモビリティ関連製品の推移

2.ポリマー・オリゴマーの中計進捗

(1)成長戦略の加速:分野別成長推移

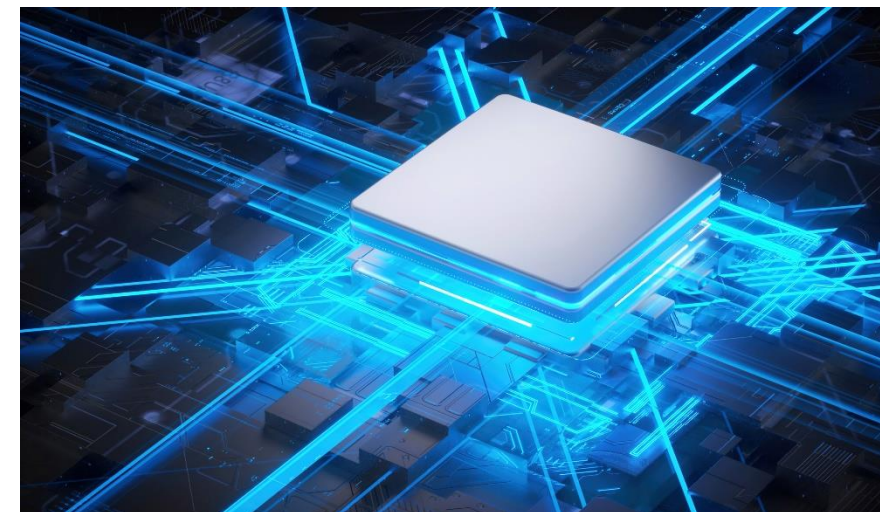
半導体・電子材料

CMP（化学機械平坦化）ポリマー

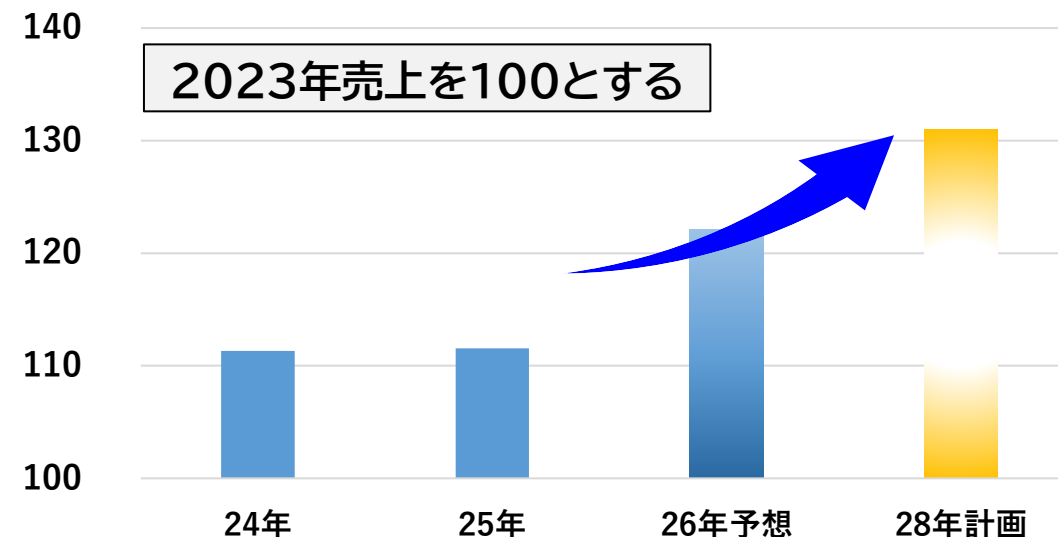
- 半導体製造でチップの表面をnm単位で平坦に削る工程で平坦化向上のため水溶性ポリマーを添加剤として使用
- 当社品の特徴
 - ポリマーの構造制御技術
 - 精密研磨性、洗浄性に優れる

レジスト用アロニックス（感光性材料）

- 半導体および液晶ディスプレイなど微細なパターン形成に不可欠なレジスト材原料に使用
- 当社品の特徴
 - 高い現像速度により生産性向上
 - 低不純物濃度により歩留まり改善



売上高推移(半導体・電子材料)



2.ポリマー・オリゴマーの中計進捗

(1)成長戦略の加速

■ 医薬・化粧品

多岐に亘るアクリルポリマーの独自技術を生かし、高付加価値用途への展開を推進。
「ユニークな質感」「新たな機能」を実現する設計技術により、化粧品への採用拡大。

代表製品

ARON NT-Z

- ・ 分散重合技術による粒径制御技術を駆使した高吸水性微粒子
- ・ ノンシリコンの保水ゲルが、高いソフトフォーカス効果を実現

ARON AC-1000

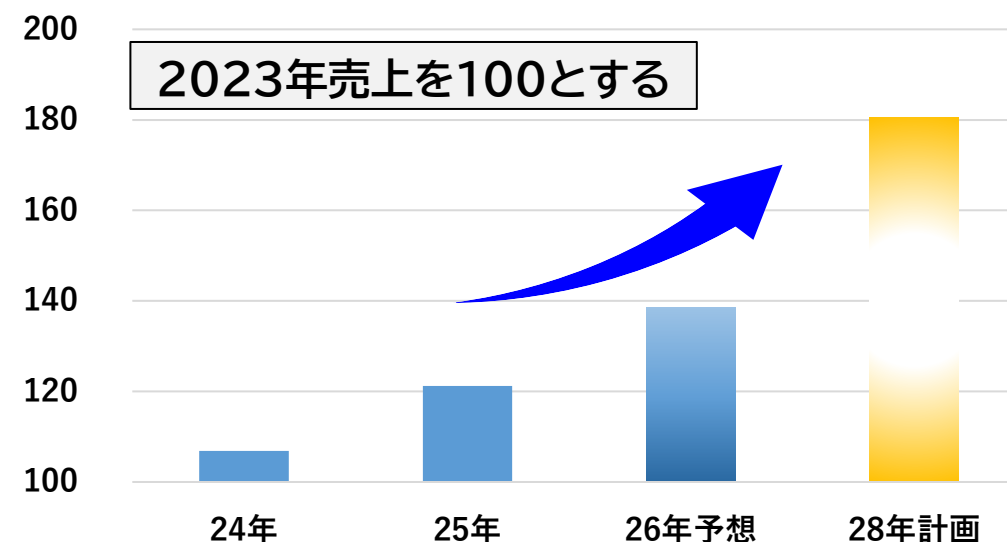
- ・ 自己乳化型エマルジョン技術から生まれた被膜形成材料
- ・ 均一なヴェールが肌に密着し、汗・皮脂・擦れへの耐性を向上

アロンビスシリーズ パップ剤に使用される医薬品原料

- ・ 架橋構造を制御した高密着ゲルが、患部に長時間しっかりとフィット
- ・ グローバルシェアトップの実績を活かし、中国市場で販売拡大
- ・ 貼付箇所を冷やす効果で、冷却シート(医薬部外品)用途へも展開



売上高推移(医薬・化粧品)



2.ポリマー・オリゴマーの中計進捗

(2) 生産性向上:凝集剤設備統合による合理化

凝集剤

カチオン粉末設備について、当社**坂出工場に集約完了**。
2026年7月から商業運転開始。

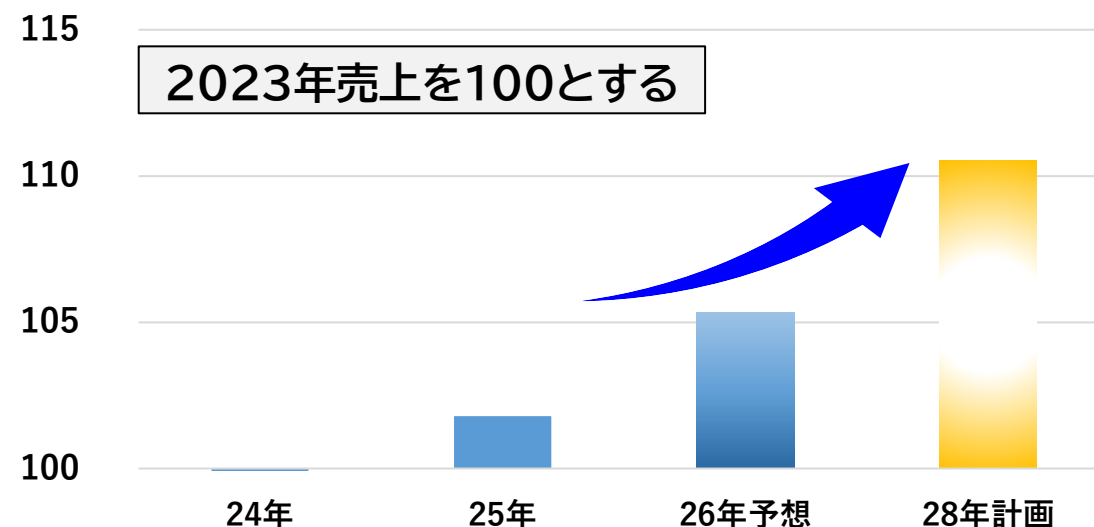
国内唯一の凝集剤製造メーカーとして、安定供給の
ための事業基盤を強化。



工場集約によるスケールメリットを生かし生産性と
価格競争力の向上を推進。
合理化メリットを生かし、海外輸出など販売拡大を図る。



売上高推移（凝集剤）

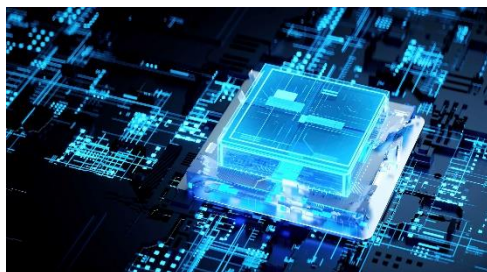


3.高機能材料の中計進捗

(1)半導体向け高純度製品の強化

高純度液化塩化水素

- ・高品位ウエハ製造用、**世界シェアNo1**。
- ・AI向け(ロジック、メモリ用)半導体がけん引。

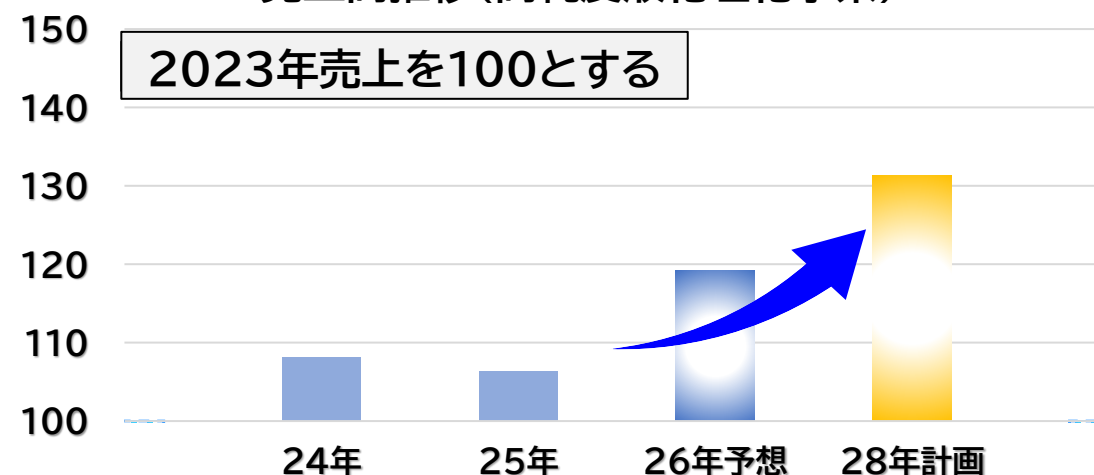


高純度カセイカリ

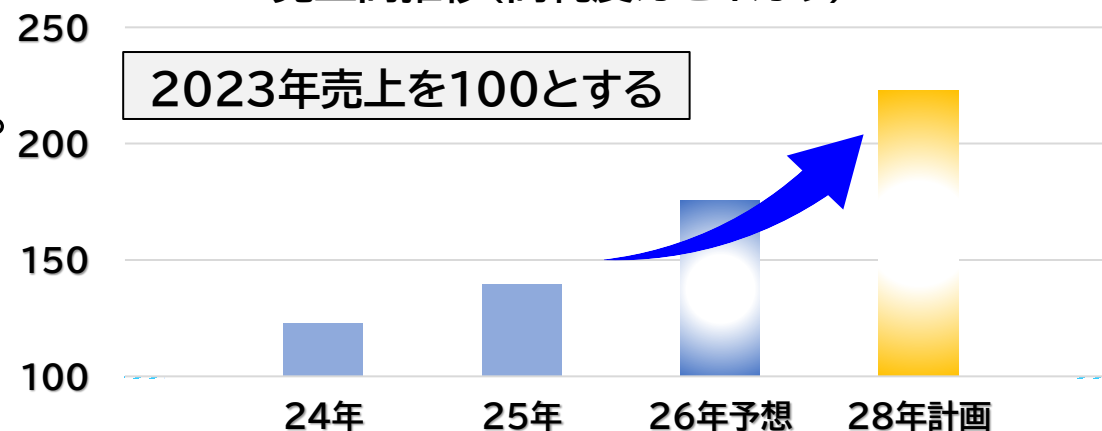
- ・CMPスラリー原料。
- ・メモリ用半導体の多層化によりCMP工程増加。
半導体高性能化により、需要が伸長。



売上高推移(高純度液化塩化水素)



売上高推移(高純度カセイカリ)



3.高機能材料の中計進捗

■ 液化塩化水素の次世代プロセス開発 (超高純度への進化)

半導体の需要拡大および微細化・高集積化に伴う品質要求に対応するため、先進的な製造技術に基づいた設備を完成させ、将来需要への対応を整備。

2026年に品質評価を進め、2027年から本格稼働する計画。



横浜工場 高純度液化塩化水素 新設備

■ 半導体後工程用製品開発アイテム

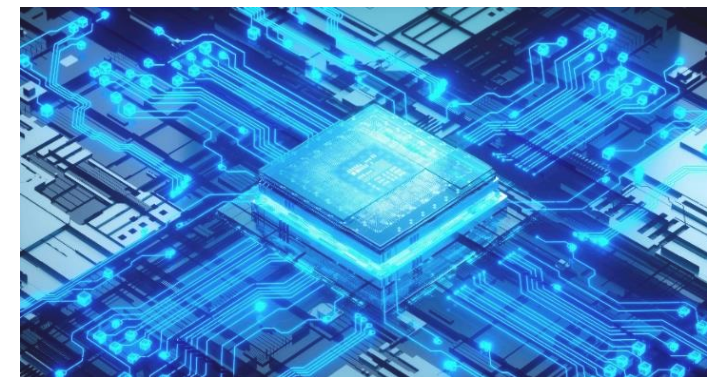
・負熱膨張材料

多層、微細化したAI向け半導体の銅張積層板(CCL)用途等で使用される各種樹脂の熱膨張性を制御する添加剤。

代表製品:ウルテア

・耐熱性UV剥離粘着剤

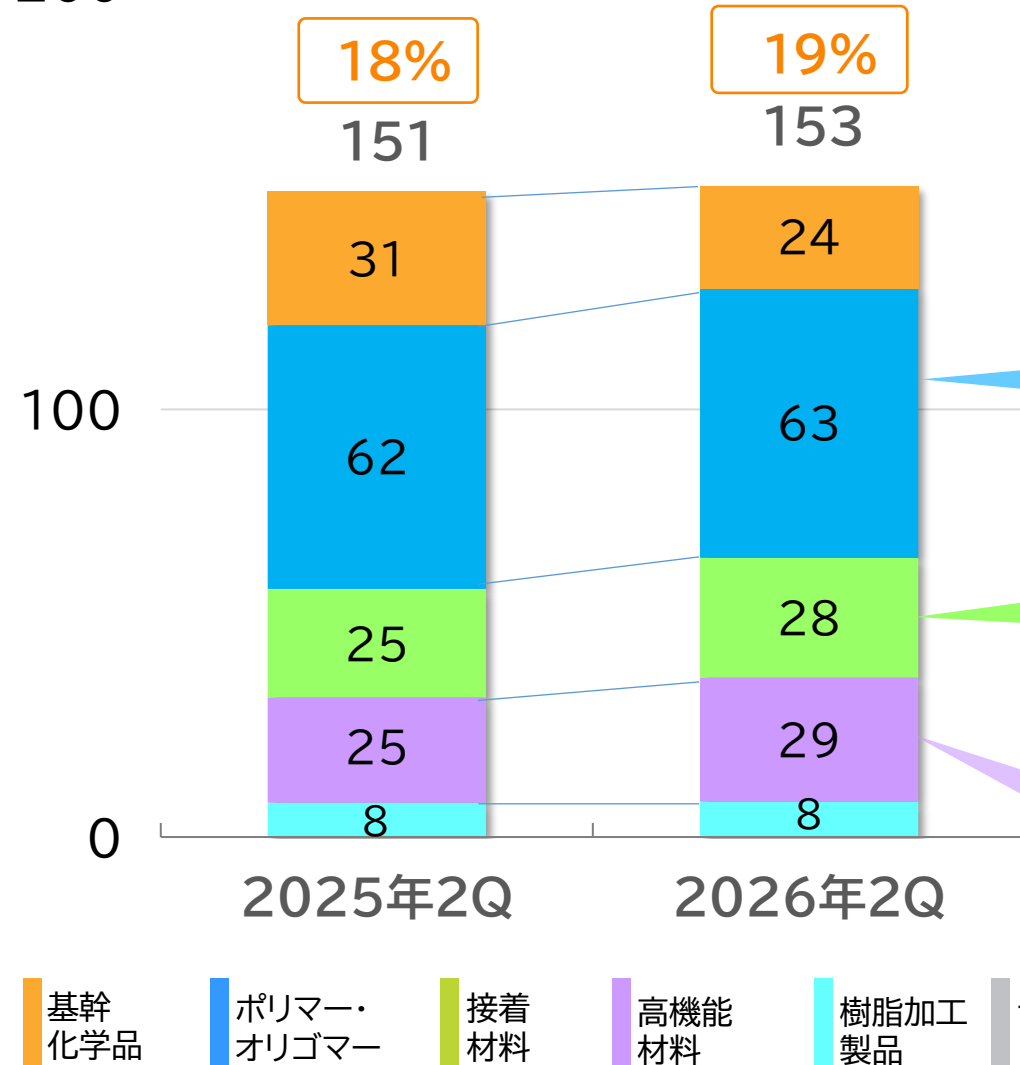
半導体後工程の加熱工程で使用される表面保護・仮固定用テープ用粘着剤。



4. 海外売上高の中計進捗

(億円)
200

海外売上高比率



- ・中東情勢による原料調達制約に伴い、基幹化学品の販売数量が減少したものの、注力分野における海外拡販を推進した結果、海外売上高は前年超えを達成。
- ・引続き高付加価値製品を中心に海外展開を加速。

ポリマー : 欧米向けモビリティ関係が堅調
オリゴマー : アジア向け電子材料が堅調

接着材料 : 北米瞬間接着剤事業は、製販一貫体制の進捗により売上が拡大

高機能材料 : アジア向け半導体需要好調により
高純度液化塩化水素の売上拡大

5.カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

「2050年にカーボンニュートラル(実質ゼロ)」をめざし、温室効果ガス(GHG)の排出量削減を推進。
2026年はこれまでに以下を実施。

4月 横浜市とのごみ焼却熱有効利用実証試験を開始

- 横浜市と連携し、ごみ焼却熱を活用して化石燃料使用量とCO₂排出量の削減を目指す実証試験を開始。



4月 小水力発電事業の共同開発に関する協定を締結

- 当社初となる小水力発電所が年内完成予定。
- (株)森とみずのちからとも連携し、小水力発電所の新規開発に着手。



5月 水素燃料電池システムの共同実証を開始

- 富士電機(株)と共同で、電解水素を活用した水素燃料電池の商用化を目指し、発電システムの共同実証を開始。



7月「水素エンジン ハイブリッド車」技術実証に特別協力

- 地産地消型の水素サプライチェーン構築に向け、徳島県で実施される国内初の「水素エンジンハイブリッド車」公道実証に参画。



參考資料

海外売上高の状況(地域別)

単位:百万円

セグメント	2025年 上期	アジア	北米	欧州 その他	2026年 上期	備考
基幹化学品	3,128	△ 52	△ 146	△ 514	2,416	原料調達難により国内出荷を優先
ポリマー・ オリゴマー	6,167	△ 145	142	159	6,322	北米向け電池材料好調 欧州その他はモビリティと化粧品向 け好調
接着材料	2,535	△ 50	380	△ 22	2,843	北米瞬間接着剤単独事業運営による 売上増加
高機能材料	2,463	424	98	△ 99	2,886	アジア向け半導体薬剤出荷好調
樹脂加工製品 他	806	△ 62	46	△ 2	788	
合計	15,098	114	521	△ 478	15,255	海外売上高比率 25年上 18%、26年上 19%

	2025年 4-6月	2026年 4-6月	増減	増減率
売上高 (百万円)	40,522	43,771	3,248	+8.0%
営業利益 (百万円)	3,655	4,706	1,049	+28.7%
営業利益率	9.0%	10.7%	1.7p	—
経常利益 (百万円)	4,304	5,379	1,075	+25.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	3,715	3,245	▲470	▲12.7%

連結業績(部門別)【第2四半期 会計期間】



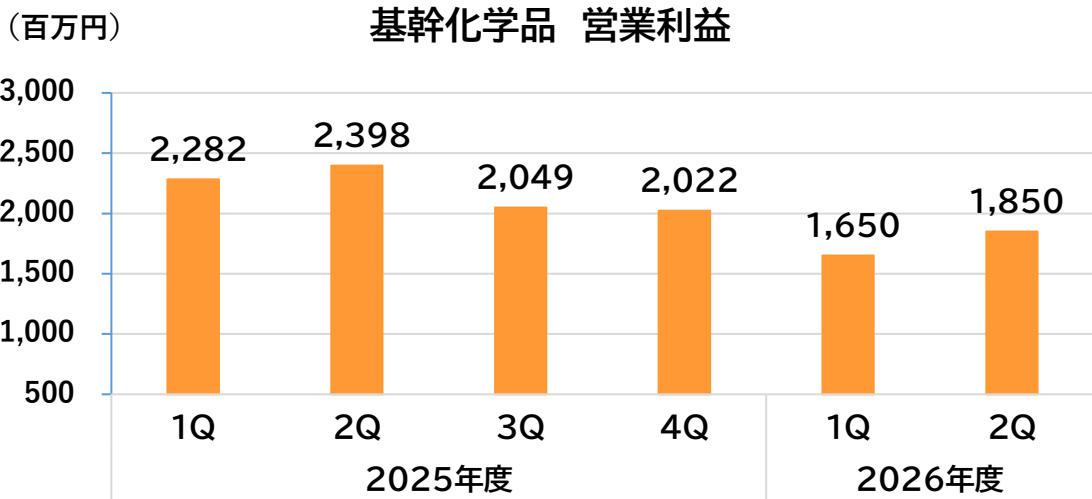
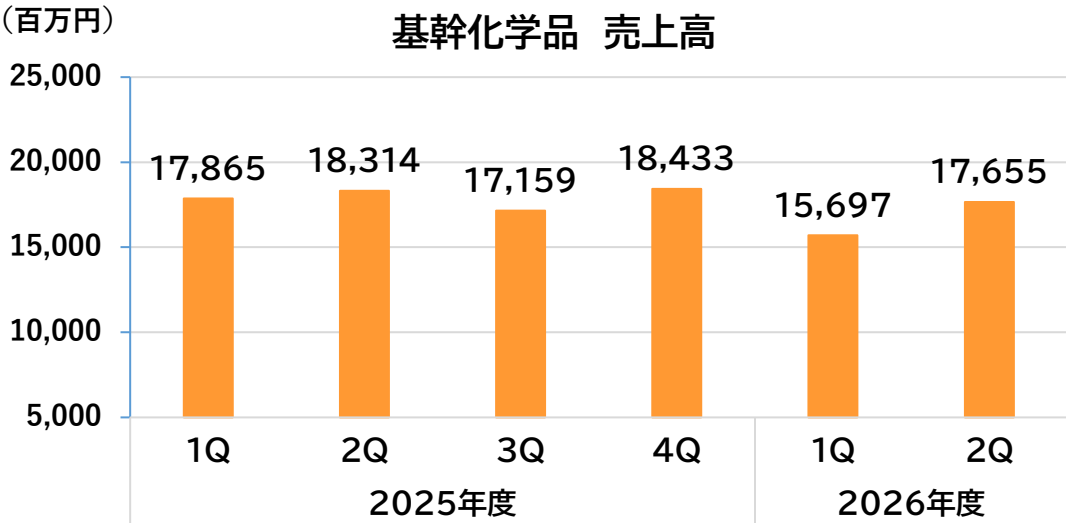
(百万円)

売上高	2025年4-6月	2026年4-6月	数量差	単価差	増減額
	A	B			B－A
基幹化学品	18,315	17,655	▲3,150	2,489	▲659
ポリマー・オリゴマー	8,727	10,471	351	1,393	1,743
接着材料	3,370	3,753	▲49	432	383
高機能材料	2,607	2,965	203	155	359
樹脂加工製品	6,910	8,327	937	480	1,417
その他・調整額	593	599	6	－	6
合 計	40,522	43,771	▲1,701	4,950	3,248

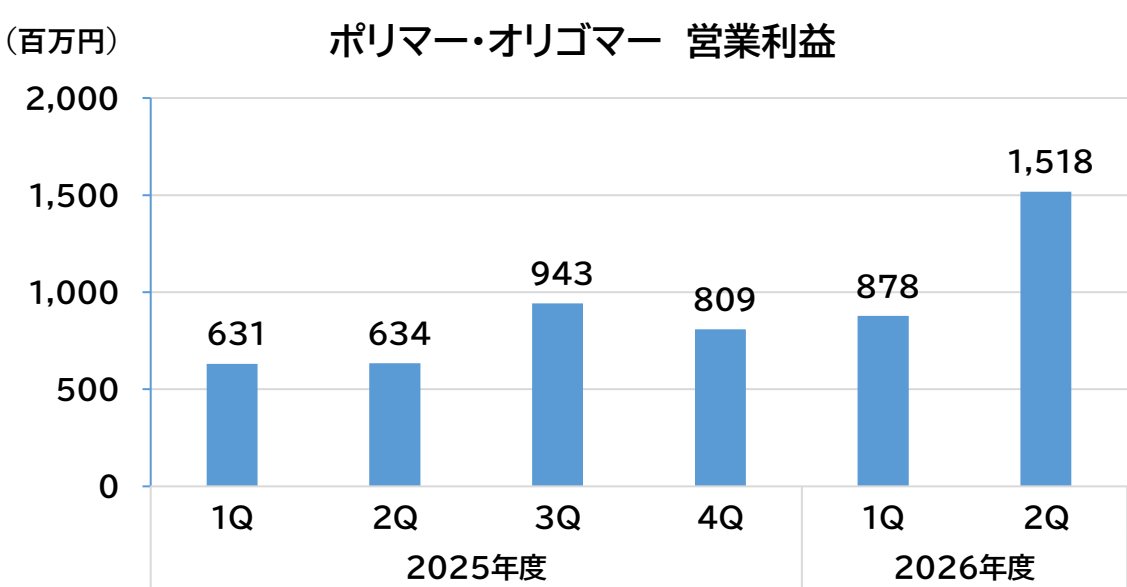
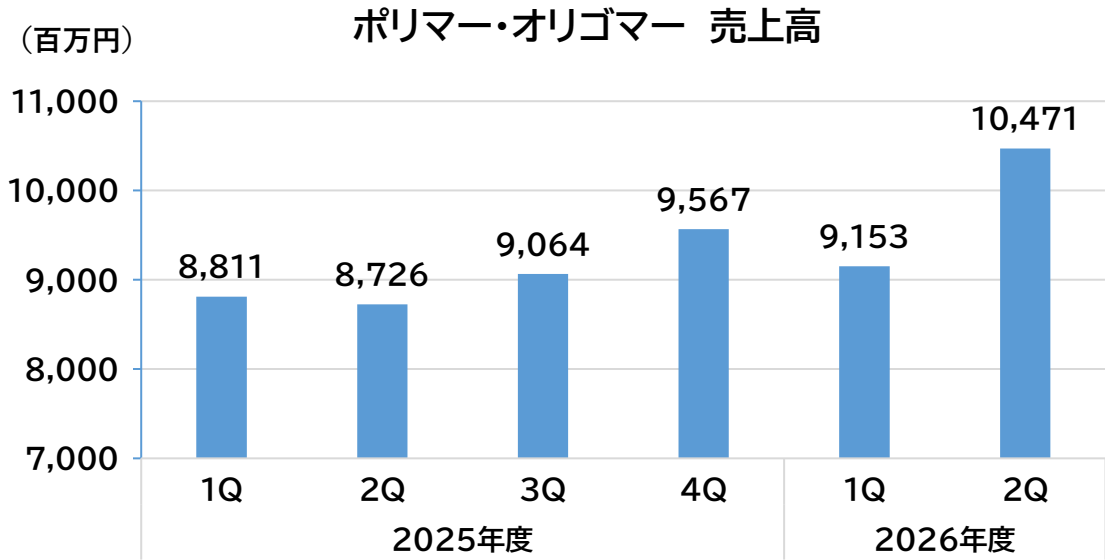
(百万円)

営業利益	2025年4-6月		2026年4-6月		増減
	営業利益	営業利益率	営業利益	営業利益率	
基幹化学品	2,399	13.1%	1,850	10.5%	▲ 548
ポリマー・オリゴマー	635	7.3%	1,518	14.5%	884
接着材料	110	3.3%	181	4.8%	70
高機能材料	314	12.0%	466	15.7%	152
樹脂加工製品	671	9.7%	1,180	14.2%	508
その他・調整額	▲ 473	－	▲ 489	－	▲18
合 計	3,655	9.0%	4,706	10.8%	1,049

基幹化学品事業	売上増減率 (前年同期比)		売上高増減理由
	2026年 4-6月	2026年 1-6月	
無機化学品	108%	105%	コスト上昇に伴う製品価格の是正により、増収
アクリルモノマー	93%	88%	一部製品の販売終了と中東情勢による原料調達制約に伴う販売数量の減少により、減収
工業用ガス	112%	112%	販売数量の増加により、増収

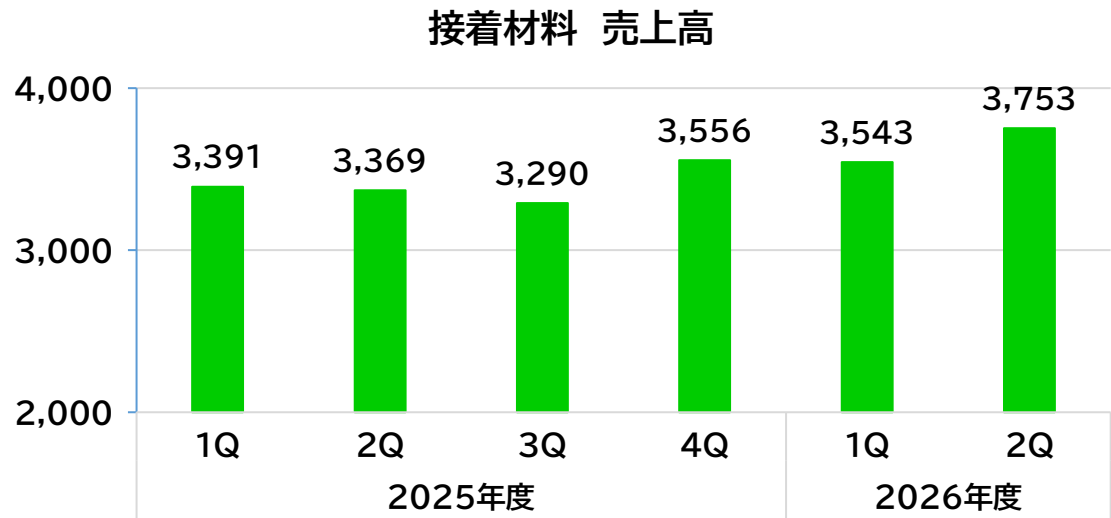


ポリマー・オリゴマー事業	売上増減率 (前年同期比)		売上高増減理由
	2026年 4-6月	2026年 1-6月	
ポリマー	120%	116%	車載向け、医薬・化粧品向け、半導体向けの販売数量の増加と採算是正により、増収
オリゴマー	129%	112%	電子材料向けの販売数量の増加とコスト上昇に伴う価格是正により、増収
凝集剤	114%	108%	中東情勢による原料調達制約に伴い販売数量が減少したものの、採算是正により、増収

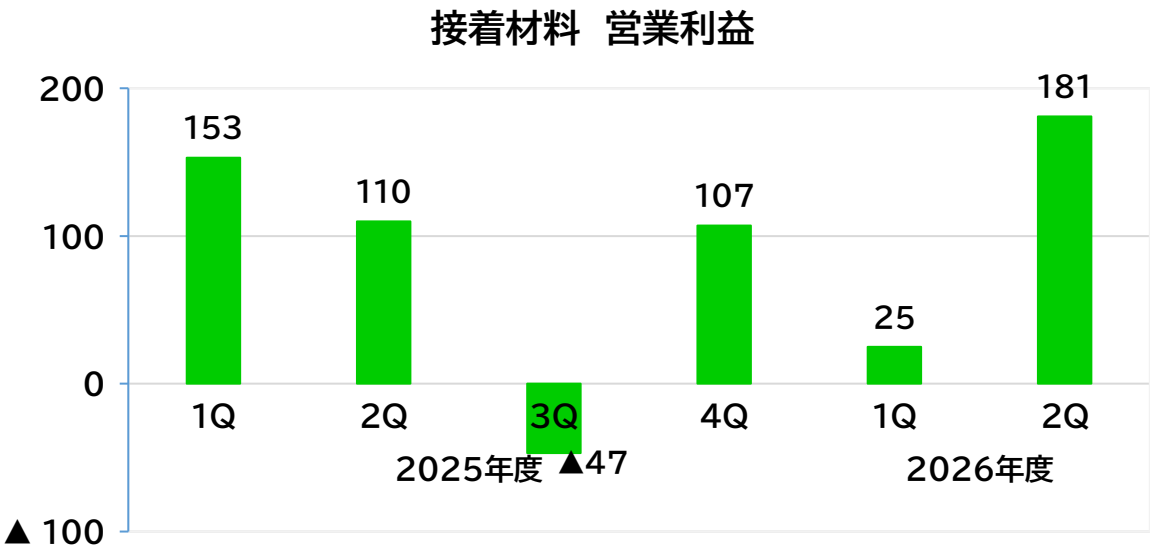


接着材料事業	売上増減率 (前年同期比)		売上高増減理由
	2026年 4-6月	2026年 1-6月	
瞬間接着剤	124%	113%	米国での販売価格の改定により、増収
機能性接着剤	102%	104%	車載向け、スマートフォン向けの販売数量の増加により、増収

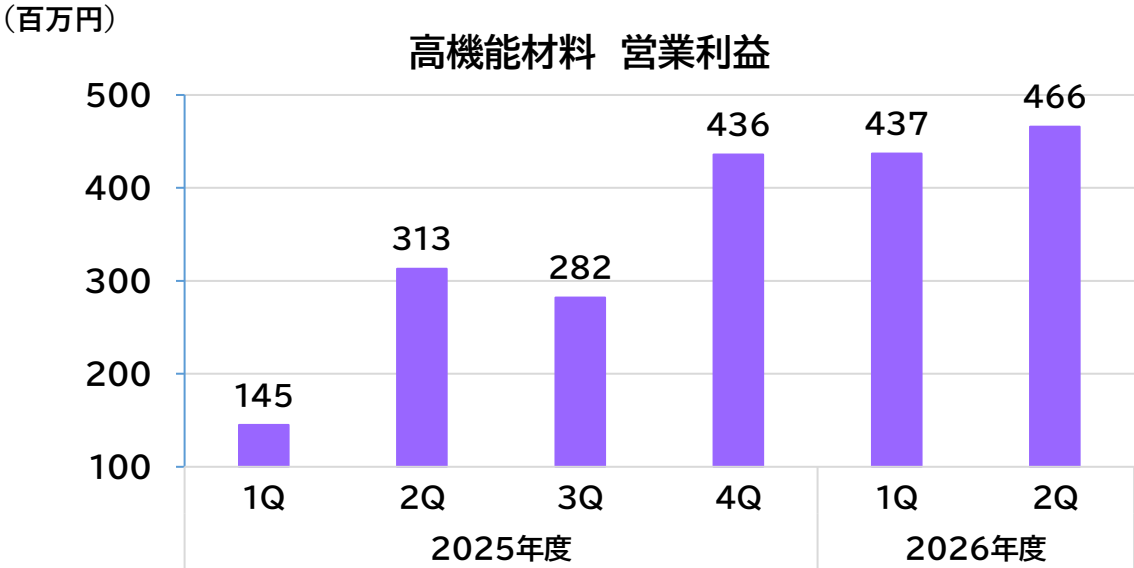
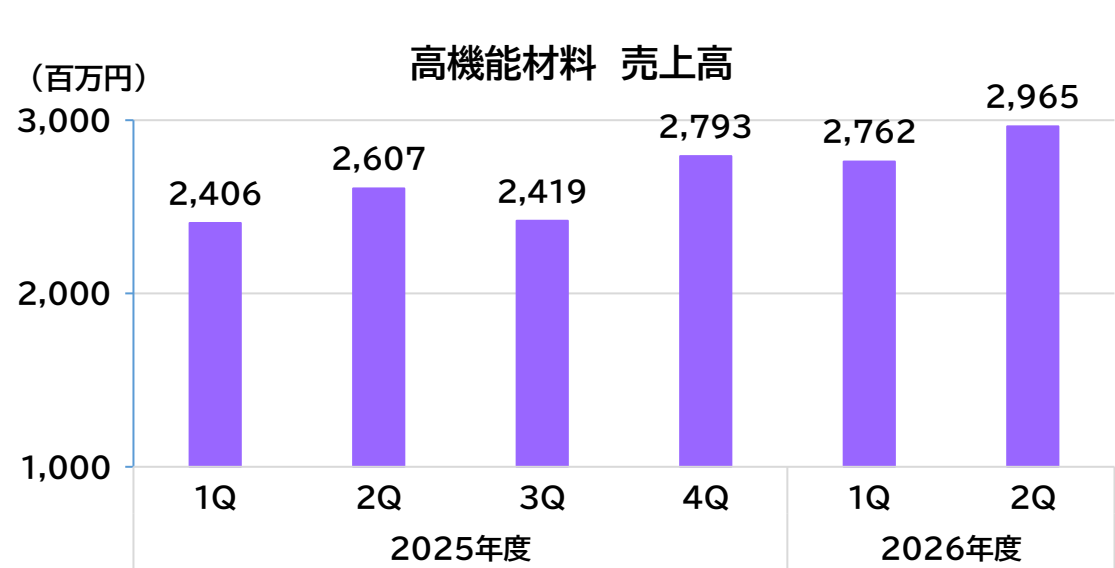
(百万円)



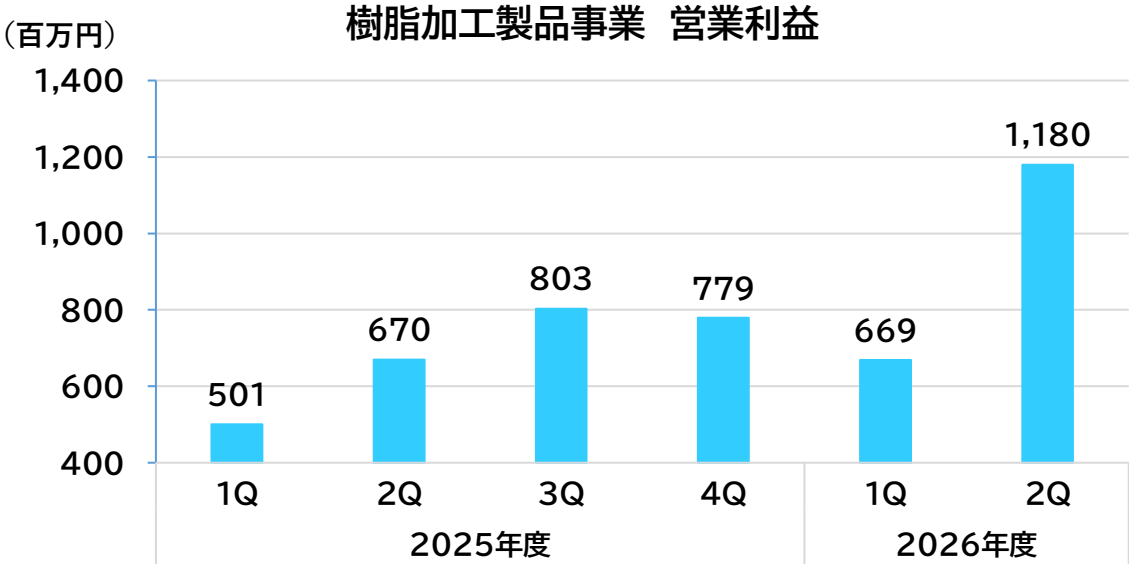
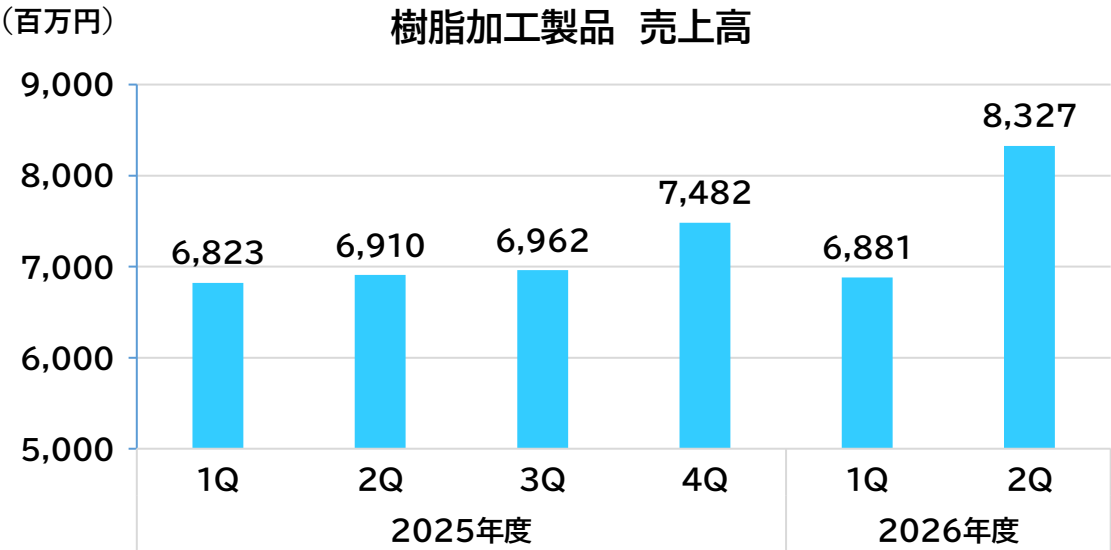
(百万円)



高機能材料事業	売上増減率 (前年同期比)		売上高増減理由
	2026年 4-6月	2026年 1-6月	
無機機能材料	84%	78%	無機抗菌剤の販売数量の減少により、減収
高純度無機化学品	124%	128%	半導体向けの好調な需要を背景とした販売数量の増加により、増収
新製品開発	100%	136%	

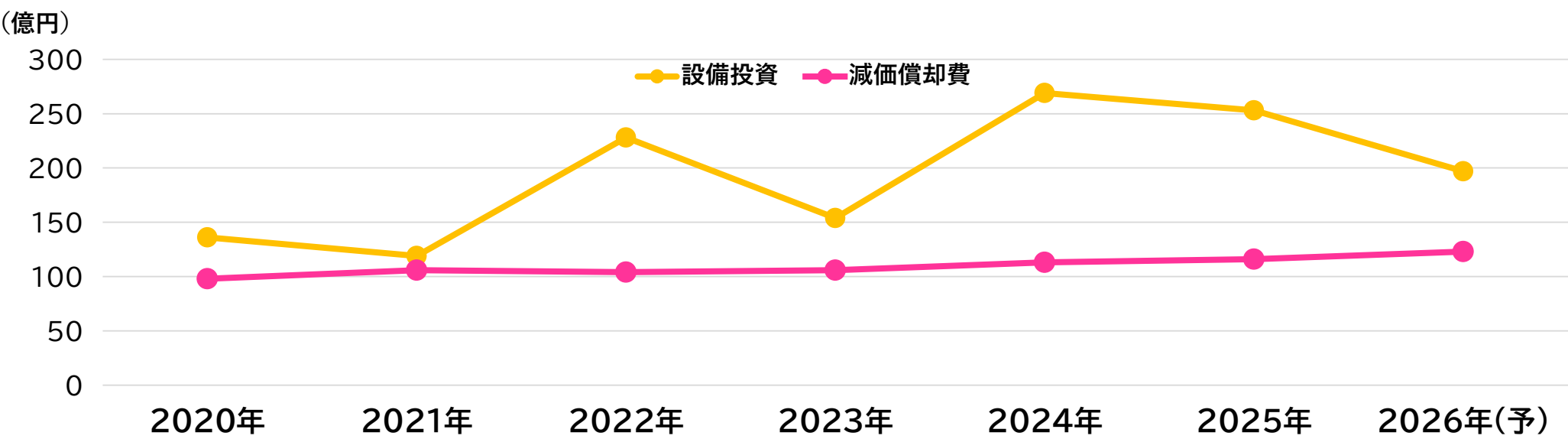


樹脂加工製品事業	売上増減率 (前年同期比)		売上高増減理由
	2026年 4-6月	2026年 1-6月	
環境インフラシステム	133%	119%	下水道関連向け製品の販売数量の増加により、増収
ライフサポート	92%	96%	入浴介護用品等の販売数量の減少により、減収
エコマテリアル	108%	99%	東南アジア向け製品の販売数量の減少により、減収



(億円)

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年(予想)
設備投資	136	119	228	154	269	281	219
減価償却費	98	106	104	106	113	116	126
研究開発費	40	43	47	50	58	67	70
海外売上高	221	290	310	266	289	294	328
海外売上高比率(%)	16.6	18.6	19.3	16.7	17.3	18.1	19.2
有利子負債	113	112	110	110	110	206	204



ESGの取り組み

E (環境) S (社会)	2021年12月	「2050年カーボンニュートラル（実質ゼロ）」目標設定 ・2030年に2013年比50%削減（215千トン） ・2050年にカーボンニュートラル（実質ゼロ）
	2023年1月	「従業員向け株式報酬制度」の導入
	2023年4月	「2023 年トルコ・シリア地震救援金」寄付 「シグナルペプチドーム研究」の社会連携講座を東京大学に設置 GXリーグに参画（2022年10月に賛同）
	2024年1月	「能登半島地震」寄付、グループ会社による製品供給支援 ※アロン化成株式会社のトイレ用アタッチメント（2024年6月に経済産業省から感謝状を受領）
	2024年5月	「2024年台湾東部沖地震救援金」寄付
	2024年6月	愛知県知多市における低炭素水素モデルタウン事業化可能性調査へ参画(2025年から実証事業開始)
	2024年8月	小水力発電所建設開始（長野県）
	2024年10月	「能登半島大雨災害」寄付
	2025年6月	アクリル酸のISCC PLUS 認証（国際持続可能性カーボン認証）取得
	2025年9月	自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）提言への賛同とTNFD フォーラムへの参画 「SOMPO サステナビリティ・インデックス」構成銘柄に選定
	2025年12月	「こどもの未来応援基金」「一般財団法人あしなが育英会」寄付(2021年から継続)
	2026年1月	賃金改定5.6%引上げ
	2026年3月	「健康経営優良法人 2026（ホワイト 500）」認定(通算6回目)
	2026年4月	（株）森とみずのちからと長野県における小水力発電事業の共同開発に関する協定を締結 横浜市とのごみ焼却熱有効利用実証試験を開始
	2026年5月	富士電機（株）と水素燃料電池システムの共同実証を開始
	2026年7月	徳島県における水素エンジンハイブリッド車の技術実証に特別協力として参画

ESGの取組み

G (ガバナンス)	2020年3月	取締役を対象に譲渡制限付株式報酬制度を導入
	2021年10月	「東亜合成グループ コーポレートガバナンス基本方針」改訂 ・ 政策保有株式の貸借対照表への計上額が連結純資産の 10%程度となることを目途にする ・ 英語開示の推進 決算短信の全文開示(2021年12月期～)
	2022年3月	社外取締役を初めて過半数とする(社内6名、社外7名)
	2022年4月	東京証券取引所「プライム市場」への移行
	2022年8月	英語開示の推進 コーポレート・ガバナンス報告書の全文開示
	2023年8月	「PBR 改善に向けた取組み」を公表
	2024年7月	指名委員会と報酬委員会を指名報酬委員会へ統合
	2025年10月	株主優待制度を導入
	2025年12月	政策保有株式の縮減 政策保有株式の貸借対照表への計上額が連結純資産の10%程度となることを目途 2025年12月末現在 : 14.3% (保有株残高30,892百万円) (直近5年間の売却価額合計23,626百万円)
	2026年2月	中期経営計画「Connect and Create 2028 (共創で未来を拓く)」発表 「PBR 改善に向けた取組み」を更新 ・ PBRは、2028年1倍以上、2030年1.2倍以上を目標とする ・ ROEは、2028年6.5%、2030年8%程度を目標とする ・ 中計期間において、総還元性向90%程度、期間平均配当性向70%程度

スポーツ振興への取組み



私たちは卓球「Tリーグ」を応援しています。



私たちは **IWAKI FC** を応援しています。



-
- 本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いします。